

# 山の現場から

⑧ 沼田地区

日田 直樹  
営農指導員  
指導員歴32年

J A広島市では、地域農業の振興と農業生産の拡大に向け、管内を17の地域に分け、それぞれの地域特性を活かした品目の選定や計画的な作付け、振興方策をまとめた「地域別農業プラン」を策定し、計画的な産地づくりと持続的農業の振興に取り組んでいるところです。

このページでは、17の地域の「地域別農業プラン」および営農・畜産指導員を紹介していきます。8回目となる今回は、沼田地区です。

## 地域別農業プラン〜沼田地区

### ◆現状と課題

農業振興地区である戸山地域は圃場整備が進み、転作作物として、J A広島市広島菜漬センターに出荷する広島菜・ミブナ・葉大根の原菜の生産振興に取り組んでいます。

また、J A広島市のアグリサポート事業（ひろしま活力農業経営者育成事業）で10名が就農し、軟弱作物野菜を中央市場に出荷販売しています。

伴地区および大塚地区については都市化が進み、これまでの基幹作物であった長ナスやコマツナの栽培も減少しています。

### 営農指導にあたり

#### 沼田町農事研究会 岩森憲雄 会長

歴代の指導員を知る岩森会長は、「経験の深いベテラン、特に稲には詳しい」と日田指導員を評価します。51名の会員のうち、10名が新規就農者。農業に向かうスタイルはそれぞれ違いますが岩森会長は「必要な時、実家のように訪ねてくれればうれしい」と地域の農業を日田指導員と一緒に見守ります。



#### 農事組合法人よしやま高田進 組合長

今年度購入した燻炭器で作ったもみ殻燻炭は、地域農業に利用され、地元で循環し機能しています。「育苗ハウスも増設し、職員も増やした。これからが本場の経営」と力を込める高田組合長。法人のモットー「助け合い、楽しく、生き生きとした活力ある地域づくり」の実践を日田指導員と一緒にめざします。



### ひとこと

J A職員として32年間の勤務は、営農指導員筋、天職だと思っています。休みの日は、安芸太田町へ週末帰農の生活で、農業との縁は公私を問わず長く深いものとなっています。

そのため、アムケット沼田をはじめとする「直売所」への出荷が主流となり、栽培形態も少量多品目となっています。



#### 農事組合法人戸山の郷 中王 小山正則 組合長

ソバ・ジャム・もち・黒ニンニク・ハブ草茶など、生産から加工に力を入れる中王では、イベントなどへ積極的に出店し、PR活動にも力を入れています。新たに知り組んだ、葉ニンニクの生育を日田指導員と確認しながら、小山組合長は「現在栽培する多品目の生産量をそれぞれ増やしていきたい」と、法人の作り出す商品のさらなるブランド化に意欲的です。

#### 農事組合法人ほなみ伊藤信彦 組合長

圃場整備も終わり、これからが本番と、今春からの取組みとともに計画します。不整形で決して効率の良い圃場とはいえないけれど、それもこの土地の特徴。土地の有効利用をと、さっそく学校給食用にタマネギを2万本定植しました。「情報を共有し、規模を拡大していきたい」と伊藤組合長は話します。



### ◆振興方策

沼田町農事研究会を中心に、定期的な講習会を実施し、品質向上・農業の適正使用、栽培履歴の記載などの普及啓発に力を入れて推進しています。また、アグリサポート事業による就農者や、農事組合法人をはじめとする認定農業者に対しては、市場出荷や契約栽培による販売促進を行い、経営基盤の安定化を推進します。

直販については、大幅な需要が見込まれるインシヨップなどに広く出荷者を募り、これまで出荷販売されていなかった自家消費用の農産物を販売することで、農家の所得向上を図ります。

また、ミスナ・コマツナについては、食味を重視しつつ比較的栽培の容易な品種の選定を行い、計画的な作付けで圃場回転率を向上させ、生産販売量の拡大を図ります。

朝市や、とれたて元気市への出荷については、定期的に農談会を実施し、各地域に点在する少量多品目野菜を出荷誘導するとともに、消費者に対しては地産地消のPRと農業への理解深耕に努めています。また、アムケット沼田出荷組合を中心に、品質向上・農業の適正使用・栽培履歴の記載を推進し、アムケット沼田を特徴ある産品の販路としていきます。

### ◆推進品目

米穀 / エダマメ / 切花 / コマツナ  
ミスナ / ホウレンソウ / シュンギク  
広島菜 / ナス / コカブ など

#### アムケット沼田出荷組合 上広忠義 組合長

「ジツとしてはダメ。やり方を変えていく必要もある」と、上広組合長は対人販売の強みを活かした出張販売を行うなど積極的に挑戦しています。それに応え、日田指導員は、「新たな品目への挑戦により朝市の特色である少量多品目栽培を伸ばしていただきたい」と組合員の背を押し、朝市と一緒に盛り上げていきます。



「自分にとって農業は、好き嫌いという以前の存在で、常にやらなくてはならない習慣」と話しながらも、日田指導員は小学生の頃の作文に「将来の職業は農業」と書いていたとか。組合員のみなさんの悩みをいち早く知り、解決に導ける営農指導をめざします。